

京都創造者賞

アート・文化部門

京都伝統工芸大学校

開校以来20年にわたり、伝統工芸の技を習得した人材を輩出し、後継者育成と伝統産業の活性化に貢献



講評 伝統工芸の後継者難が言われて久しい。匠の技が内輪の徒弟制や世襲により受け継がれてきたことも一因であった。同校は、そのような技を未来につなぐため、20年前にあえて学校教育を導入し、数々の困難を克服しつつ、人材育成事業を軌道に載せた。近年では、この学校無くして今の伝統工芸界無しとの声も聞かれる。現在、多くの卒業生が、次世代の有望な担い手として全国で活躍している。また、京都市の中心部に京都伝統工芸館を開設、欧州の工芸学校との提携も進め、来年には京手描友禅の専攻も新設される。京文化の基軸産業を力強く支える同校の取組みを称えるとともに、今後の更なる展開に期待したい。

もてなし・環境部門

京都錦市場商店街振興組合

京都の食文化を守り、街の活気と賑わいを創出する京都を代表する商店街

講評 錦市場は、江戸初期に現在の市場のかたちを整え、今年400年を迎える。その間、多くの困難を克服しつつ、「京の台所」として、「ほんまもん」にこだわる食文化を守り育てるだけでなく、顔の見える商いを通じて、多様な文化を生み出す場でもあり続けた。今や京都屈指の観光スポットとして、国内外からの訪問客の定番コースともなっており、「NISHIKI」は世界ブランドになりつつある。時代の変遷を越えて続く老舗と新しい商店の組合せが程よく保たれ観光客激増による諸課題にも創造的に向き合われる組合の姿はすばらしい。今後も食を通じて京都ブランドの輝きが一層増すことを期待したい。



京都創造者大賞 2015

～ 創造が生み出す伝統～

数百年という歴史を誇るお盆の伝統行事を受け継ぐ 京都五山送り火連合会及び各保存会 を大賞に決定

京都創造者大賞顕彰委員会(委員長:千玄室・裏千家大宗匠)、京都府、京都市、本所では、今年9回目を迎えた「京都創造者大賞」の受賞者を決定し、9月4日にウイングス京都において授賞式を開催しました。同賞は、「京都ブランド」のイメージアップや京都の都市格向上に著しく貢献している個人や法人、団体、およびその商品や作品、技術、サービスなどを、オール京都により「創造者」として称え、その功績を国内外に発信することを目的としており、「大賞」をはじめ、「もてなし・環境」、「アート・文化」、「企業」、「未来への飛翔」の各部門賞の受賞者を選定しました。

応募状況

応募総数 243 件 (自薦 34件 / 他薦 209件)	
もてなし・環境部門 60件 (自薦 5件 / 他薦 55件)	企業部門 65件 (自薦 10件 / 他薦 55件)
アート・文化部門 66件 (自薦 10件 / 他薦 56件)	未来への飛翔部門 52件 (自薦 9件 / 他薦 43件)

京都創造者大賞事務局 (本所 産業振興部内) TEL 075-212-6450 FAX 075-255-0428 E-mail taisyo@kyo.or.jp

京都創造者大賞

京都五山送り火連合会

(特非)大文字保存会、(公財)松ヶ崎立正会、船形萬燈籠保存会、左大文字保存会、鳥居形松明保存会

地元の人々やボランティアによって支えられ、数百年という歴史を受け継ぐお盆の伝統行事



写真 京都市観光協会

講評 お盆を迎えた精霊を送るとき、人々は様々な祈りや思いをこの灯に重ね、京都は特別な静寂に包まれる。点火にあわせて市民や企業が自ら街の灯りを落とす中、町内辻々からひろがる慎みの気配は、もはや地元の宗教行事を越え、国内のみならず海外から訪れる人々の心をも動かす。この行事が、各保存会をはじめ、多くの組織や個人の奉仕によって今に受け継がれていることは、皆様が時代ごとの様々な困難に向き合いつつ、行事の重みへの認識を年々新たにしてこられたからであろう。今後も京都が大切にしている年中行事として、多様な祈りを受け止めつつ、その灯を未来へと継いでいけるよう願ってやまない。

未来への飛翔部門

京都ハンナリーズ

(スポーツコミュニケーションKYOTO株式会社)

ホームタウン京都に夢と感動を提供し、京都のスポーツ文化発展に貢献するプロバスケットボールチーム



講評 同チームは年々強さを増し、2014-15年シーズンには圧倒的な成績で地区優勝を果たし、若き選手たちの活躍は、京都のスポーツ界に鮮烈な印象を残した。その戦績もさることながら、選手自ら街頭に立つての薬物乱用防止キャンペーンなど、地域社会とのつながりを育む活動が、近年の来場者数増につながっていると評価される。日本初のバスケットボールチームが京都で結成されて100年目にあたる今年、新たに全国統一されるリーグの「1部リーグ」所属が決定したことは、今後の飛翔への確かな歩みである。更なる活躍により、応援する人々の数も増え、町中がその話題でハンナリーと賑わう時が来ることを祈りたい。

企業部門

京都タワー株式会社

開業50年を迎えた京都の玄関口のランドマーク

講評 京都タワーは、建設当時、景観面で議論があったものの、今や京都の玄関口のランドマークとして定着し、観光客だけでなく、遠出から戻った京の住人も温かく迎える。一方で、乳がん検診啓発などの各種キャンペーンでのメッセージカラーによるライトアップの取組みは、街行く人々の注目を集め、まさにランドマーク建築ならではの社会貢献と言える。間もなく突破するとされる通算来塔者数3千万人を更新する発展への契機とし、タワー展望台から鳥瞰する京都の街並みが美しいものであり続けることを願うとともに、京都駅周辺の活性化を導く「まちなかの灯台」として、今後の多様な展開に期待を寄せたい。

